

# 64年東京五輪招致の立役者・故和田勇氏

## ゆかりの御坊市 活気

1964年の東京五輪招致の立役者として知られる日系二世の実業家、故和田勇氏(07〜2001年)のゆかりの地、御坊市がにわかには活気づいている。17年に官民一体の顕彰会が発足し、この11月には米国在住の次女が初参加してシンポジウムや朗読劇を開催。20年五輪への「懸け橋」とPRしている。

### 次女、20年五輪「懸け橋」に



写真や勲章、感謝状など約100点を展示した、歴史資料館の「和田勇コーナー」＝御坊市で

和田氏は米ワシントン州に生まれ、幼少期の5年間、両親の故郷の御坊市などで育った。

まだ反日感情が強かった1949年、米ロサンゼルスで開かれた競泳の全米選手権で、故古橋広之進氏ら選手団を自宅に寝泊まりさせるなど世話を焼いて出た。日本選手は大活躍し、東京五輪招致への協力要請を受けた。

祖国の戦後復興につなげたいと、自費で妻と中南米を回り、国際オリンピック委員会(IIOC)委員らを熱く説得。「東京に五輪を呼んだ男」と語り継がれている。

その功績を後世に伝えようと、御坊市は名誉市民第1号の称号を贈り、2016年には本願寺日高別院の寺内町として発展した地元の歴史資料館に「和田勇コーナー」も開設、写真や勲章、感謝状など約100点を展示した。顕彰会もJRの駅に横断幕を設置し、

### 資料コーナーやシンポ開催

御坊市を訪れた次女メアリー・マリコ・ローズさん(77)は「日本は自然災害に見舞われ、(五輪などの)財政も大変。もし父が生きていたら『ベストを尽くせ』と応援すると思う」と話した。

東京五輪がテーマの19年のNHK大河ドラマに取り上げるよう働き掛ける。

顕彰会の岡本恒男事務局長は「移民の苦勞などを原動力に、和田氏は社会奉仕の心や人類愛に満ちていた。一国主義が世界に広がるいま、その志を訴えたい」と語る。



シンポジウムで故和田勇氏について語る次女メアリー・マリコ・ローズさん(左から2人目)ら＝御坊市で